

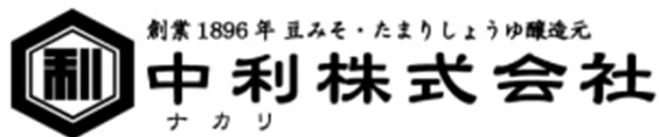
# 中利株式会社

# 受注や生産工程をバラバラのフォーマットで個別管理しており、作業効率に課題を感じるシステムにより一元化することで、誰でも効率的で正確な作業ができる仕組みをつくる

## 中利株式会社 実証結果【1/4】

### 企業概要

- 企業名  
中利株式会社（愛知県半田市）
- 代表  
小栗 利朗
- 概要
  - 醸造業の街として栄える半田市に1896年（明治29年）に創業した「豆みそ」、「たまりしょうゆ」の醸造元
  - 伝統×技術をかけ合わせ、顧客に価値を創造し、次の100年も継続できる会社へ



### デジタル化推進の背景

- 受注データが一元管理できておらず、属人的な経験や技量によって業務が成り立っている
- 生産工程においては、工程ごとに別ファイル管理となっており、トレーサビリティの正確な把握ができていない

### 導入ツール



- 「Excel読み込み」や「ドラッグ&ドロップ」で簡単にシステム構築ができる業務改善ツール
- 顧客管理案件や日報など幅広い用途で使用可能で、リアルタイムでの共有、情報の一元化が可能

# kintoneを用いてすべてのデータを同じフォーマットで統合 原料調達・生産から販売まで一気通貫の簡易基幹システムを目指す

## 中利株式会社 実証結果【2/4】

### モデル実証を通じて解決を目指した課題

#### 受注データの一括管理及び分析

- 現在、メール、FAX、Web、電話等で受けた注文について共通管理する仕組みがないため受注データもバラバラに散逸しており分析も難しい  
これを一括で管理できるようにし受注動向を分析できるようにしたい

#### 生産トレーサビリティの可視化

- 生産トレーサビリティを実現するためには、現状の仕組みでは複数のExcelや伝票を人手頼みで探し組み合わせるしか方法がないため、これを合理的かつ効率的に実施できる仕組みを構築したい

### 課題解決に向けた取組内容

#### 原料調達・生産から販売までをつなげられる仕組みを構築

- 在庫管理(原料・製品)、生産管理、受注管理の各アプリを作成・運用するとともにアプリ間連携できるようにコード体系を整備することで、現在Excelと紙に頼っている各業務をデジタル化し効率化する
- 副次的に、受注動向から在庫・生産計画を立てられるようにすることも企図している

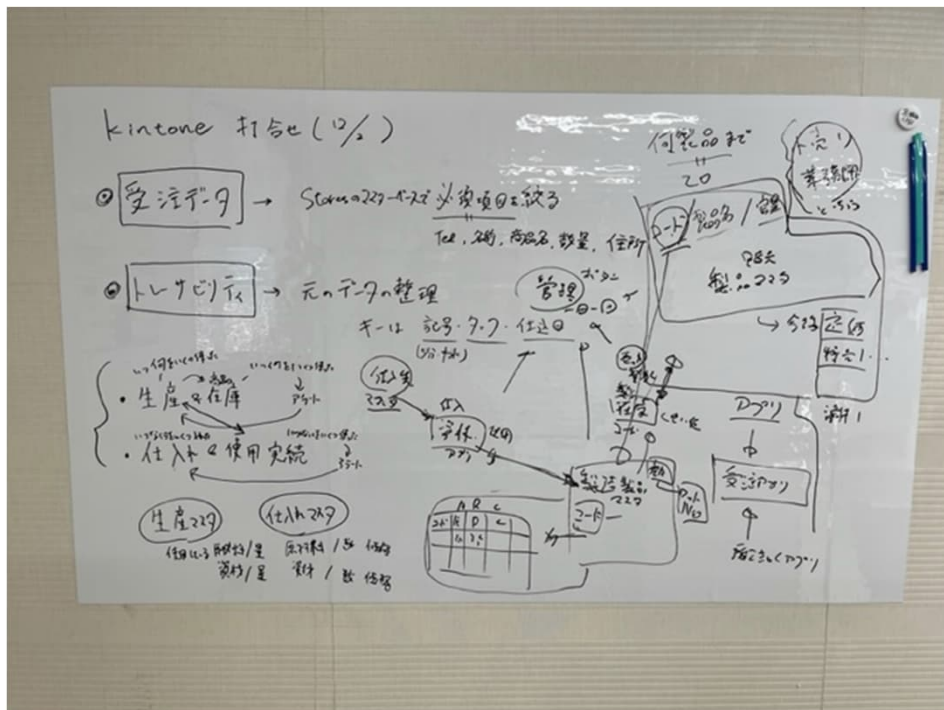
# 現在基幹システムがないこともあり、ノーコードでの簡易基幹システム構築に挑戦 概要設計までできる目途が立ったところで実証が終了

## 中利株式会社 実証結果【3/4】

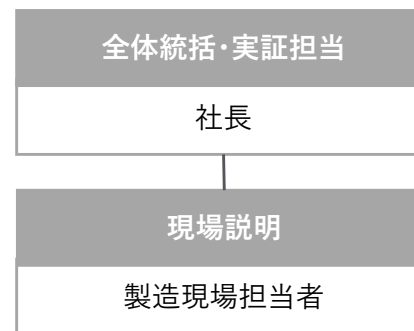
### 実証時に感じた壁および克服のためのアクション

#### 社内データ内容の一元化が難しい

- 各業務ごとに紙時代を引きずった形でExcel化が部分的になされている、といった状況であり、各業務間のデータのつながりが直接は判別できない状況であった  
⇒ 販売業務を起点として業務の流れを遡り、あわせて各業務で必要なデータ項目を確認していくことで、新たに必要データを定義し、それらを使用して業務を実施するためのアプリも製作することとした



### 実証体制



- 製造現場に詳しい担当者が現場説明を実施し、それに基づき社長がマスタ整備・アプリ仕様検討などを実施
- 全体統括・実証担当の社長退任に伴い実証終了

### 取組の成果

- (実証企業体制変更による実証終了のため省略)

# (実証企業体制変更による実証終了のため省略)

## 中利株式会社 実証結果【4/4】

### 今後の課題・目標

- (実証企業体制変更による実証終了のため省略)

### (デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

- (実証企業体制変更による実証終了のため省略)